

事例 3 本の装丁の多様性とその意匠の奥深さを知り、思考力、判断力、表現力等の育成をねらった事例

○学年 第3学年

○主な領域 デザインに表す活動

○事例のポイント

- ①鑑賞を通して対話し、読者の視点を確かめ制作を進められるよう学習過程を工夫する。
- ②身近にある本を造形的な見方・考え方を働かせ捉え直すことで、本の装丁の多様性とその意匠の奥深さを体験的に学ぶことができるようにする。
- ③個別最適にICT端末を「思考の見える化」や「学習過程の記録」に活用し、相互に制作内容や製本の工夫を共有・交流することで、学び合いを生み出す。

1 題材名 「プロデュース MY絵本 ～願いを伝える『本の佇まい』とは～」
 【第3学年】A表現(1)イ(イ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ
 デザインに表す活動

2 題材について

- (1) 生徒の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕ア、イはア____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果と、造形的な装丁の特徴を基に、絵本として全体のイメージで捉えることを理解する。 (知識及び技能)
- ・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫し、製本の順序などを考えながら、見通しをもって表す。 (知識及び技能)
- ・読者へ伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、絵本表現の構想を練る。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・絵本の目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者が絵本に込めた主題や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に読者への伝わり方を想像し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなど鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果と、造形的な装丁の特徴を基に、<u>絵本として全体のイメージで捉えることを理解している。</u></p> <p>技 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫し、<u>製本の順序などを考えながら、見通しをもって表している。</u></p>	<p>発 <u>読者へ伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、絵本表現の構想を練っている。</u></p> <p>鑑 <u>絵本の目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者が絵本に込めた主題や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め見方や感じ方を深めている。</u></p>	<p>態表 <u>美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に読者への伝わり方を想像し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。</u></p> <p>態鑑 <u>美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなど鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u></p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画(全 10 時間扱い)

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価




時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑	態	
既習事項	<ul style="list-style-type: none"> 先輩の作った絵本作品を鑑賞することから絵本制作の可能性を感じる。 エスキースの制作から主題を生み出し制作への見通しをもつ。 					○ エスキース	「主体的に学習に取り組む態度」は、夏休みに絵本の着想や構想を下絵から把握し、指導に生かす。
1	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒推しの装丁」と「美術館の絵本」の比較鑑賞を行い、本の多様性を知る。 	○ 対話観察			◎ 対話観察	◎ 記述対話観察	「思考・判断・表現(鑑賞)」は、学習記録ICTポートフォリオを自分の見方や考え方を広げているかという視点で評価し記録に残す。
2	<ul style="list-style-type: none"> 絵本作家の仕事に学び、「読者のことを考えた装丁」と「色のもたらす感情」を知る。 	◎ 記述対話					「知識・技能(知識)」は、ワークシートや学びをまとめたICTホワイトボードから自分の見方や考え方を広げているかという視点で評価し記録に残す。
3	<ul style="list-style-type: none"> シンキングツールの活用によるアイデアの整理を行い、構想を練る。 ビジュアルレコーディングでアイデアを視覚的に共有、班で話合うことで読者の視点を確認、よりよい表現を選択する。 				◎ 対話観察記述		「思考・判断・表現(発想や構想)」は、観察に加えて学習記録ICTポートフォリオが主題を読者に効果的に伝える装丁・デザインであるかという視点で評価し記録に残す。
4	<ul style="list-style-type: none"> 本の構造を知り、『本の佇まい』を決定する要素である本の大きさ、厚さ、重さ、素材、手触り、質感、場面数、割り付け、構図、絵本のジャンル、形、開き方など主題に合った装丁の要素を選択し制作に取り組む。 	○ 対話観察					「知識・技能(知識)」は、机間指導と授業記録から把握し、指導に生かす。
5	<ul style="list-style-type: none"> 内装の表現である図案、しかけの制作に取り組む。 		○ 対話観察				「思考・判断・表現(発想や構想)」は、机間指導と授業記録を総合して評価をする。
6	<ul style="list-style-type: none"> 見返しの接着、中身の大きさを決定する。 	◎ 対話観察作品					「知識・技能(知識)」は、作品の表現を造形と教科横断的な視点などから総合的に評価し記録に残す。
7	<ul style="list-style-type: none"> 内装表現を作者による読み聞かせ形式で発表し相互鑑賞する。 				○ 対話観察記述		「思考・判断・表現(鑑賞)」は、学習記録ICTポートフォリオから把握し、指導に生かす。

8	『本の佇まい』を決定する要素を選択し製本に取り組む。 (厚紙の切り出し→外装のデザインと作函→外装の完成→			◎ 記述 観察		◎ 作品 記述 対話 観察	「思考・判断・表現(発想や構想)」は、表現に至った思考や判断を授業記録から評価し記録に残す。
9	中身と外身の貼り合せ→帯、しおりの制作)		◎ 対話 観察 作品		「知識・技能(技能)」は、主題と装丁の関連を総合的に評価し、製本の技能を評価し記録に残す。		
10	・作者による読み聞かせ形式での相互鑑賞をし学びの振り返りを学習記録ICTポートフォリオにまとめる。			◎ 対話 観察	「思考・判断・表現(鑑賞)」は、学習記録ICTポートフォリオから評価し記録に残す。		
事後学習	・校内絵本展を鑑賞する。				絵本展投票用紙の感想欄を評価する。		

5 本時の学習(本時3/10時)

- (1) 目標 ・読者へ伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、絵本表現の構想を練る。
(思考力、判断力、表現力等)
- (2) 準備
○教師：板書用掲示、ICT端末、大型TV
○生徒：ICT端末、色鉛筆、スケッチブック
- (3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の具体的な姿(「」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____)	評価と手立て 【観点】：評価規準(評価方法) ◎：十分に満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
導入5分	1 前時までの鑑賞活動を振り返り、本時の課題をつかむ。 「絵本作家のこだわっている色の効果を参考にしたい。」 「ポップアップ技法をストーリーのクライマックスの場面に使ってみよう。」 「インターネットで作り方を調べられたぞ。」  編 P100 指導計画の作成の留意事項(4)(8)(10)	提案「願い(主題)」を読者に伝える効果的な『絵本の佇まい(装丁)』とは？ ○「ICT端末に記録した授業の振り返りを確認させる。」思考の連続性を持たせる。 ○色の微妙な違いを感じ取ることが苦手な生徒に配慮しグループでの取組とする。  ○ICTホワイトボードを大型TV画面で提示することで、 <u>絵本の多様な作風に気付き、学んだことを想起できるようにする。</u> ・ICTの活用：個別端末、大型テレビ ・板書の活用：学習の見通し※補足3参照	編 P100 指導計画の作成の留意事項(1)(6)  生徒作品の多様性を生み出す 

<p>展開 40分</p>	<p>2 授業記録から事前に考えてきたアイデアについてグループで話し合い、アイデアを練る。(話し合い15分) 「友達とは自分とは違った感じ方をするのが面白いな。」</p> <p>グラフィックレコーディング ※補足4参照 「スケッチブックに描き込みながら話すとイメージが友達に伝わりやすいぞ。」 「色鉛筆で塗って配色を確かめると、実際の出来上がりのイメージが想像しやすいね。」</p> <p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(2)(3)</p> <p>『本の佇まい』決定する要素には本の大きさ、厚さ、重さ、素材、手触り、質感、場面数、割り付け、構図、絵本のジャンル、形、開き方などが関係しているようだ。」</p> <p>3 「本の佇まい」についての話し合いを生かして自分のアイデアを練り上げる。</p> <p>4 次時の「内装の制作」について学習の見通しをもつ。 「あたたかで柔らかい印象の質感にしたいから、和紙や布を次の授業に用意しよう。」</p>	<p>○これからの絵本制作に生かす表現のよさと工夫を班員で協議できるようにスケッチブックに書き込みながら話し合わせる。</p> <p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(7)(9)</p>  <p>○小グループは4名を基本とし、自己のアイデアと向き合い、他者との対話を通して本時の目標を達成する活動が行えるように4つの役割を分担させる。</p> <p>①司会：発言を促したり、課題について意見し考えを深めたり話し合いをリードする。 ②発表(作者)：自分の生み出した主題を読者へ豊かに伝える装丁とは何か。参考にした美術館の絵本を手にとり装丁の説明を加えながら、アイデアを発表する。 記録：描画でアイデアを伝えたり記録したりする。 ③提案：発表を受けて感想を発言したり、アイデアに対して「よりよくなる提案」を試みたりする。 ④整理：話し合いで出た課題を整理する。 「(例) 話し合いから〇〇が課題として、解決策として〇〇が提案されました。」</p> <p>○本時の活動の成果が分かりやすいアイデアをICTホワイトボードで紹介し、他者のアイデアとの対話を通して振り返りの指針とさせる。</p> <p>○シンキングツールの選択 ・プロットダイヤグラム ・表紙・裏表紙のデザイン ・絵コンテ ・座標軸 ・情報分析チャート など</p>	<p>事例のポイント① 鑑賞を通して対話し、読者の視点を確かめて制作を進められるよう学習過程を工夫する。</p> <p>【発】読者へ伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、絵本表現の構想を練っている。 (対話・観察・記述)</p> <p>○絵本を通して読者に伝えたい主題を生み出している。また、主題を効果的に読者に伝えられる造形の工夫を発想している。</p> <p>◆エスキースの内容や装丁の鑑賞を振り返り主題を生み出すように助言する。主題を生み出している生徒には、効果的な伝わり方をグループ内で交流し、よりよい表現を考えるように助言する。</p> <p>事例のポイント② 本の装丁の多様性とその意匠の奥深さを体験的に学ぶことができる。</p>  
<p>整理 5分</p>	<p>○本時の活動を振り返り、次時の制作へ生かす。自分の課題に気づき、解決する家庭学習の内容を考える。</p>	<p>準備する素材や「予習について：ワークシート」など次回以降の学習の見通しをもたせ制作に生かすようにさせる。</p>	

知=「知識・技能」の知識に関する評価規準、技=「知識・技能」の技能に関する評価規準、
発=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑=「思考・判断・表現」の鑑賞
に関する評価規準、態表=表現における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準、態鑑=
鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。
※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

6 補足

- (1) 在籍生徒数 37 名
- (2) ICTホワイトボードをネットワーク上に作成する。生徒一人1シートでアイデアを視覚的にまとめさせ、自由に鑑賞できるようにする。参考になったり、よいと感じたりしたアイデアには付箋機能でコメントを残すように指示し、自由にアイデアを交流できるようにする。
- (3) 本時の板書計画

課題を示す赤カード
(校内共通)

話し合い活動の役割を視覚的に明示する。

②発表
ビジュアルレコーディング

本の行まい

①司会
話し合いをリード

③提案

④整理
1. 課題
2. 解決策

議論のテーマを明示した。

主題(原題)が読者に効果的に伝わる
本の行まい
大きさ・ひらき方
素材・手ざり・印象
厚さ・重さ・背表紙幅

(4) グラフィックレコーディング

議論などの内容を、イラストや文字を用いてリアルタイムで記録して保存する手法。